

アンパンマンとメロンパンナちゃん

「ジャムおじさん、ちょっとお散歩に行って来るわね。」
「あんあん！」
メロンパンナちゃんとチーズはでかけていきました。
ジャムおじさんはにこにこ見送っています。
「このごろよくお散歩に行くね」
アンパンマンは焼きあがったパンを山のおさるさんたちに
届けに出かけました。



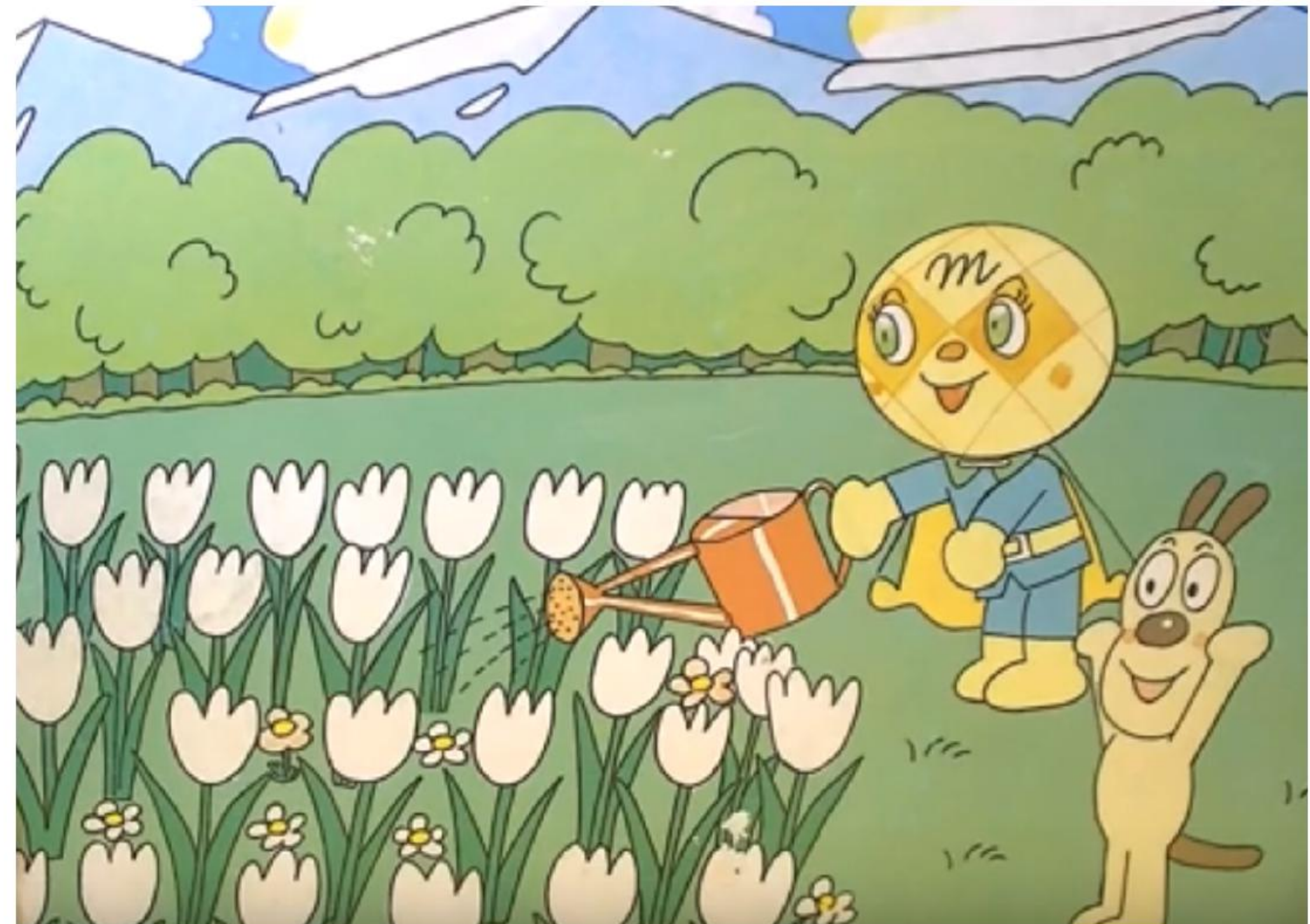
メロンパンナちゃんがやってきたのは深い山の奥です。
一面に白い花が咲いています。

「うわあお花が咲き出したわ。きれい!」

メロンパンナちゃんは 内緒でかだんをつくっていたのです。
チーズと一緒に花にみずをあげています。

「とってもいいにおいね」

「あんあん!」



そこへあらわれたのはばいきんまんです。

「やーい、この花、全部いただきー！」

いきなりはなをかたっぱしから引き抜き始めました

「ばいきんまん やめてー」

「うるさい！うるさい！」

ばいきんまんはメロンパンナちゃんを透明なカプセルにとじこめてしまいました。

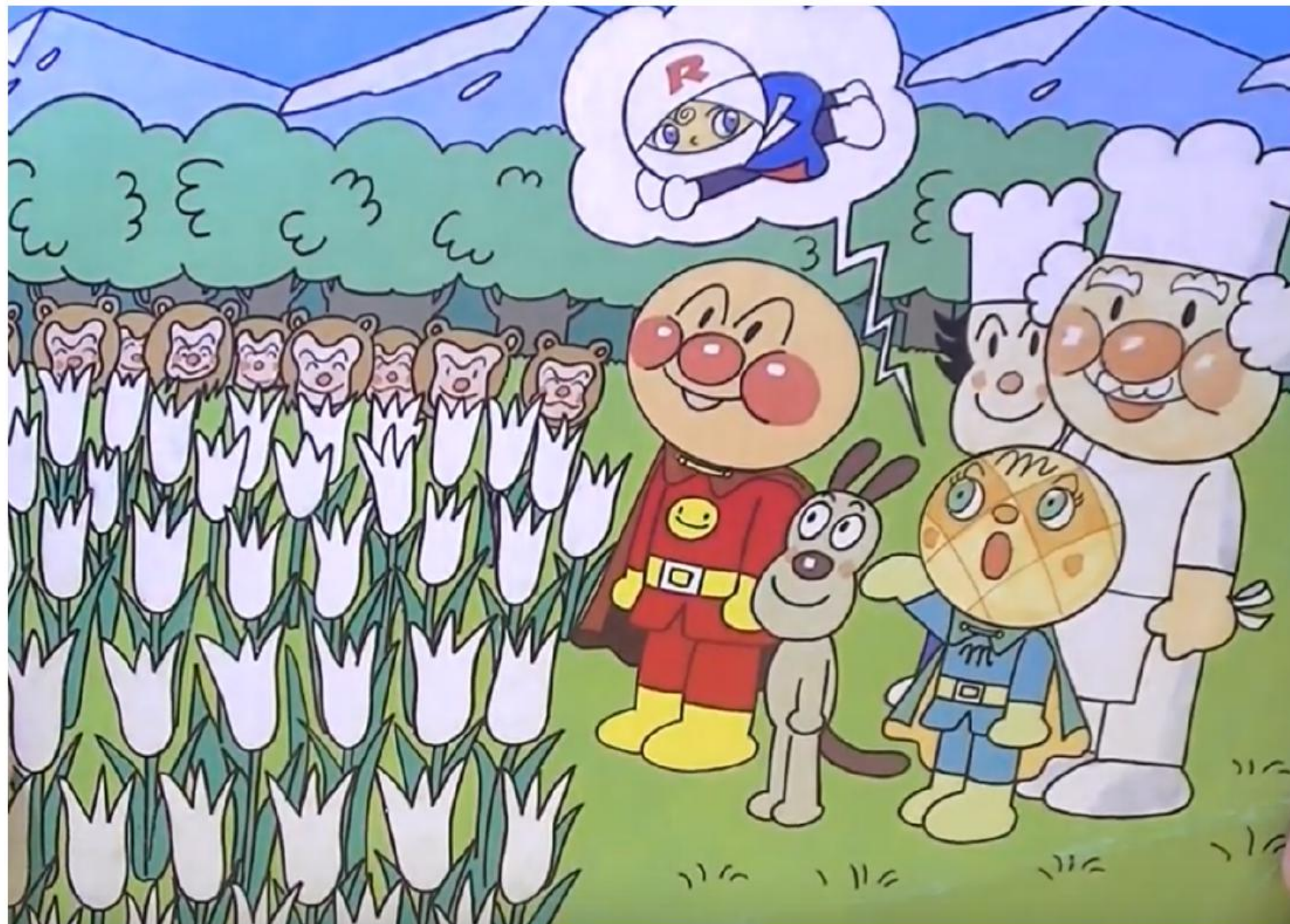
チーズはひっしにたすけをよびます。

「あん あんー！」



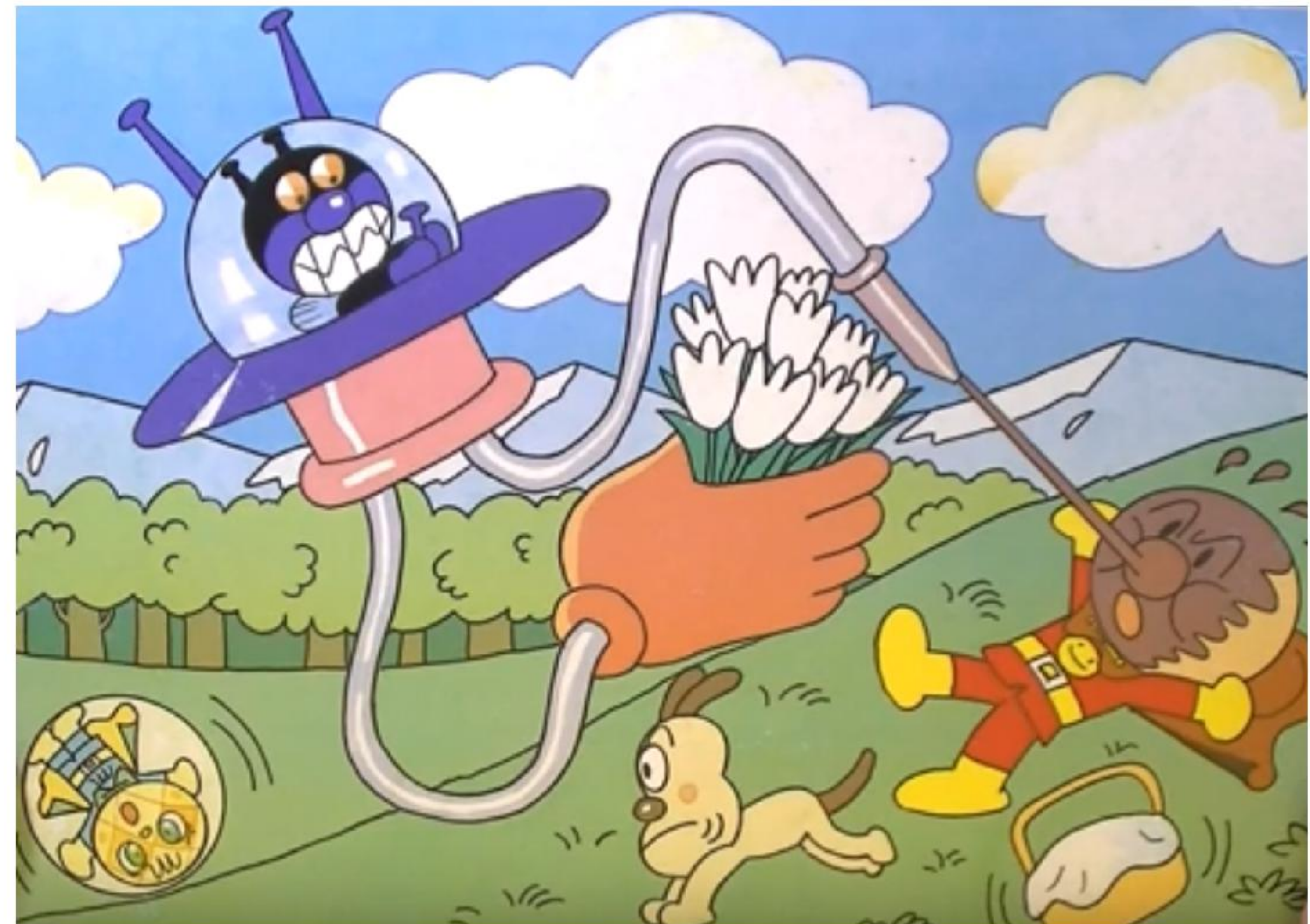
12

おさるさんたちのおかげで綺麗な花壇ができあがりました。
メロンパンナちゃんはジャムおじさんたちにその花壇をみせました。
「いやあ、とってもきれいだね。
メロンパンナちゃんのひみつの花園だね。」
「おねえちゃんに見せであげたかったの。喜んでくれるかな」
「ロールパンナちゃんの好きな白いお花だもの、
きっと大喜びだよ。」
「おねえちゃん、かえってきてー」
メロンパンナちゃんの声は山の空気を震わせて
遠くの空まで響いて行きました。



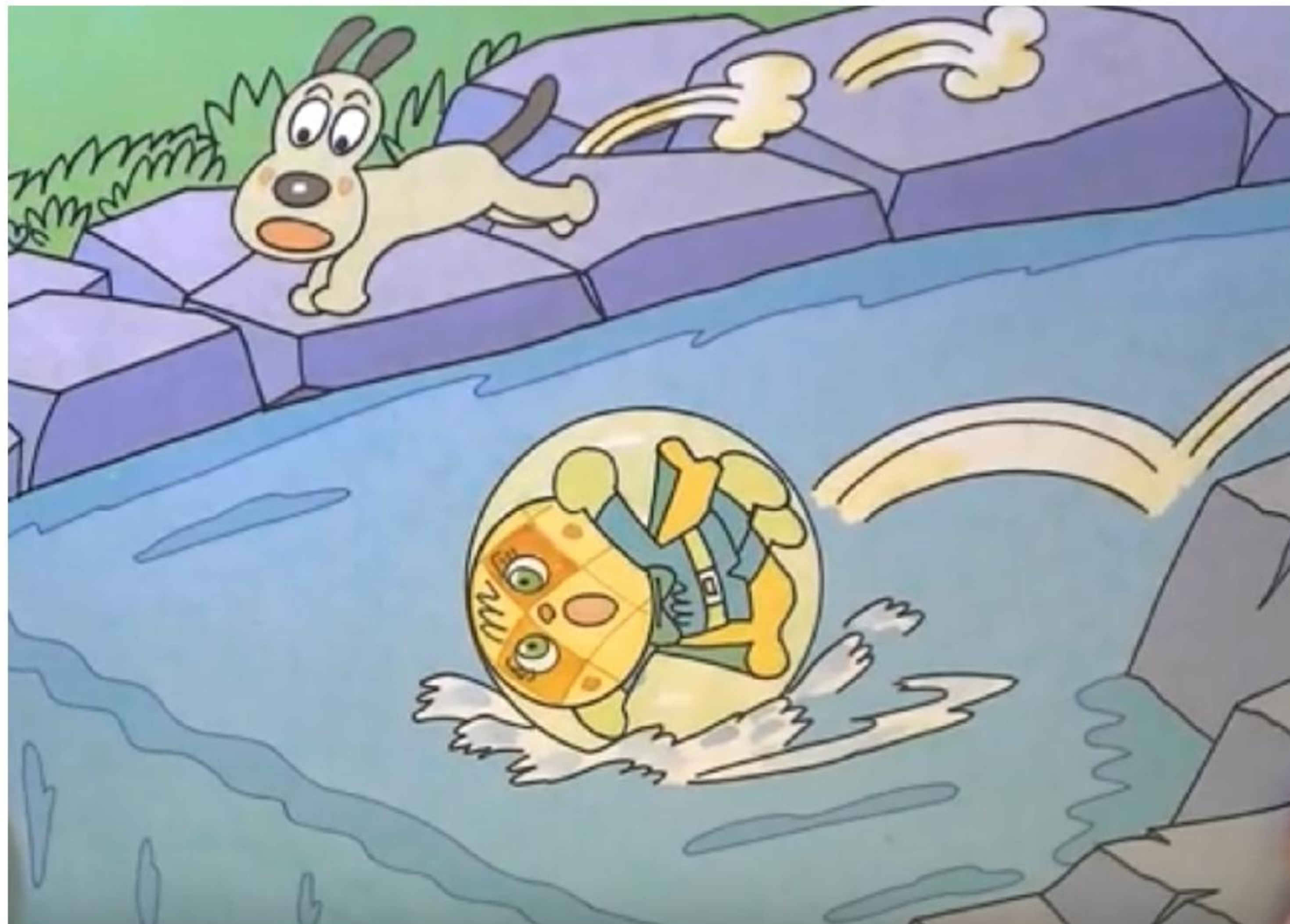
4

アンパンマンがとんできました。
「ばいきんまんやめるんだ！」
とびかかろうとするとインクが ピュー！
顔が汚れて力ができません。
ばいきんまんは メロンパンナちゃんのカプセルを斜面に
ころがすと
「ばいばいきーん」と
花を奪って飛んで行ってしまいました。
「くーん」
チーズは迷いましたが、メロンパンナちゃんのあとを
おいかけます。



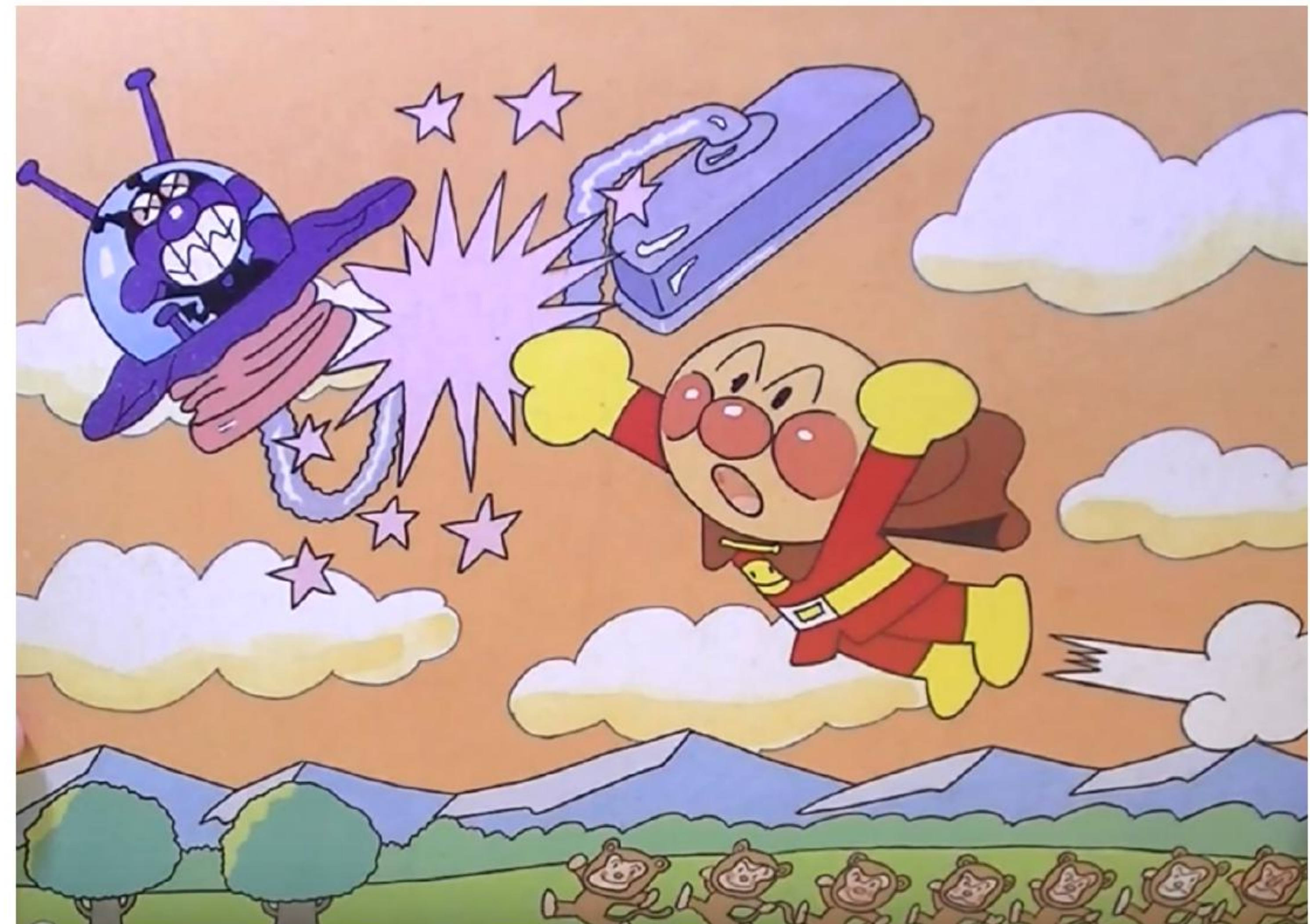
5

メロンパンナちゃんのカプセルはころころところがって
とうとう川に落ちてしまいました。
自分ではカプセルから出られません。
ぷかぷかうかびながらどんどん流されていきます。
チーズはなんとか途中でひろいあげようとしますが、
なかなかうまくいきません。
この先には大きな滝があります。
このままでは滝に落ちてしまいます。



11

新しい顔をもらって元気ひゃくばいのアンパンマン、
メロンパンナちゃんと一緒に花壇を見に戻ると
またばいきんまんが現れました。
大きな掃除機でまず鉢を吸い取り、
花をうばうつもりです。
「許さないぞ！ばいきんまん！」
「あんぱーんち！」
ばいきんまんは「ばいばいきーん」とすっとなでいきました。



10

チーズの知らせを聞いたジャムおじさんは
すぐに新しい顔をやきました。

「チーズ、この顔を早くアンパンマンにとどけておくれ」
バタコさんも一緒にかけだします。

そのとき、アンパンマンとメロンパンナちゃんが
今にも落ちそうになりながら飛んでくるのがみえました。

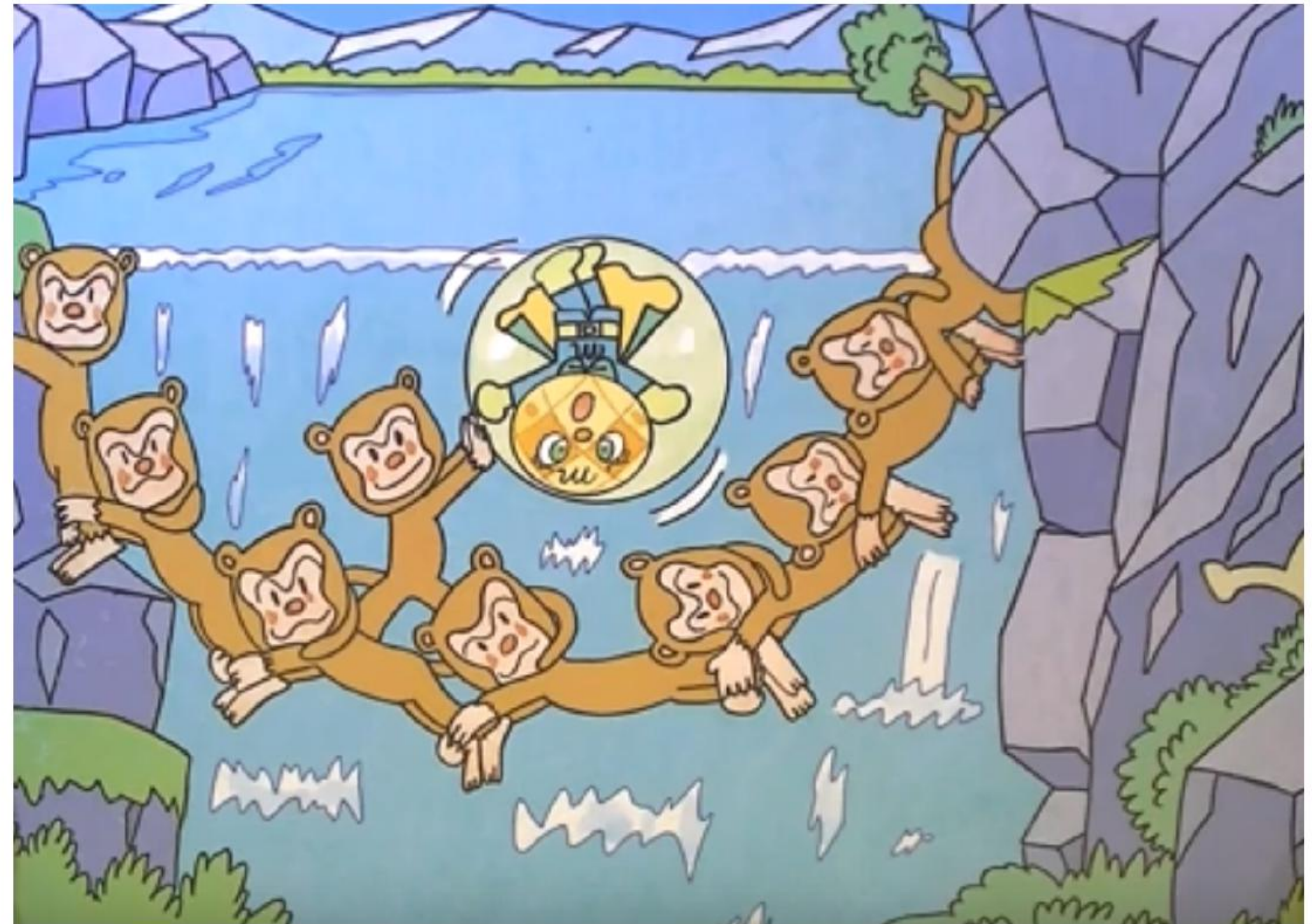


6

そのとき、山からたくさんのおさるさんたちが
おりてきました。

みんなつぎつぎに手や尻尾でつながり、
滝壺の上にはしをかけてメロンパンナちゃんのカプセルを
無事に受け取りました。

ほっとしたチーズ、今度はパン工場へ知らせに走りました。



7

メロンパンナちゃんが戻ってみると
花壇はめちゃくちゃ。
アンパンマンを助け起こしたメロンパンナちゃんは悲しそう。
「この白いお花、ロールパンおねえちゃんが大好きなの。
花壇を作っておねえちゃんをよろこばせたかったのに。」
「そうだったのか。まもってあげられなくてごめんね
すると お猿さんたちが口々にいました。
きゃっきゃ、ぼくたちがお花を集めてきてあげる。
いつももらっている美味しいパンのおれいだ」



9

おさるさんたちは白い花をたくさんあつめてくれました。
「きゃっきゃ、花壇はみんなで作ります。」
メロンパンナちゃんはほっとして、
「おさるさん、お願いね。
私はアンパンマンをパン工場につれていかなくちゃ。」
メロンパンナちゃんはあるばんまんの手を持つと飛び上がりました。
「メロンパンナちゃん、大丈夫？」
「だいじょうぶ、まかせて！
顔が濡れたアンパンマンも一生懸命飛びます。
うまくパン工場までとべるでしょうか

